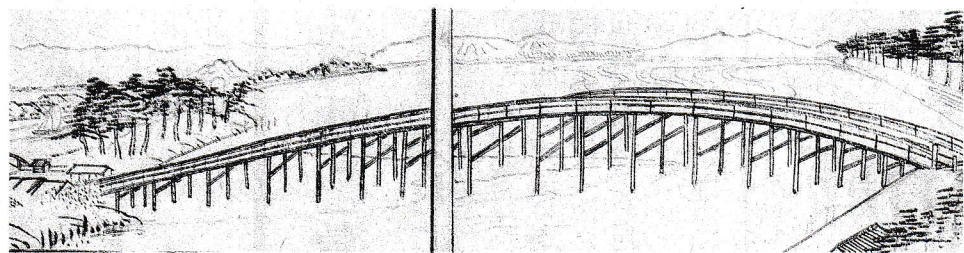


橋保護 堤防切り 時



江戸時代前期、尾張藩は想定外の増水時に大切な橋を守るため堤防を決壊させたことを、名古屋博物館の鈴木雅学芸員が明らかにした。庄内川沿いの下小田井村・枇杷島村(現在の西区・清須市)に関する藩の文書を調べて分かった。十八日午後二時から、同館での講演で発表する。

同地域は矢田川が合流し、尾張藩は水防に力を入れていた。名古屋城側の枇杷島村と、対岸の下小田井村を渡す枇杷島橋は、初代藩

尾張藩の「水防」調査 市博学芸員

主徳川義直が最初に架けた。鈴木学芸員によると、藩の法令集「尾藩令条」に、一六六六(寛文六)年の「小田井堤」決壊で土地が水没し、年貢を取りはぐれた家臣や寺社に米を支援したという記述がある。さらに約百年後の藩の民政記録集「地方古義」には、「寛文六年秋に洪水が起き、枇杷島橋が耐えられなくなったため下小田井村の堤を切った」とあった。

江戸時代、名古屋城下で書かれた日記や随筆には、「真剣に仕事をしない者」という言葉がしばしば登場する。堤防を切るため動

江戸後期の『尾張名陽図会』(部分、個人蔵)に描かれた枇杷島橋。右側が枇杷島村で、橋のたもとに水位計が描かれている。

員された住民らが少しでも作業を遅らせようとしたという言い伝えが由来とされ、その背景が今初めて具体的に裏付けられた。

冷木学芸員は「水防

タクシー運転手「非番の」写真展 栄で21日まで

名古屋市内で勤務する名鉄タクシーの運転手の写真展「非番の詩」(中日写真協会名タク支部主催)が、栄のNHK名古屋放送センタービル一階で開かれている。写真。二十一日まで。入場無料。毎年開いており三十回目。会員十六人が計四十点を出品した。作品は全紙サイズ(縦五十四センチ、横四十センチ)。



で、体をひねらせながら泳ぐイルカや水平線に沈む夕日、大きな水しぶきを上げる滝など生き生きととらえている。

支部長の大橋道広さん(66)は、一列に並んだユリカメの羽を「整列」を出品。「会員が一年間かけて撮った写真なので、じっくりと見てほしい」と話した。

午前九時〜午後四時半(最終日は午後一時半)。来場者には、出品作品が印刷されたはがきをプレゼントする。

行催事

◇シンバブエの中学生でつくる音楽グループ「ジヤナグル」講演会・演奏会 20日(月) 後5〜7、千種区星が丘元町、相山女子園大大会館3階大会議室。ジヤナグル代表の高橋朋子さんが講演し、その後1時間ほどメンバーが演奏を披露する。来日ツアーの一環。入場無料。(国際コミュニケーション学部などの学生有志「ジヤナグルプロジェクト」) 0800(2615) 9437

◇project58 名古屋陸海空ライオンズクラブ 21日(火) 7月31日(日)。名古屋学院大と市療班公開講演会「山の医学・山の救急」 25日(土) 後2〜3、瑞穂区瑞穂町、市立大桜山キャンパスさくら講堂。香川大医学部手術部病院教授で登山医学会山岳診療委員長の白村尚志さんが北アルプスの最奥部三保山に併設されている三保診療所で診療経験から外傷や応急処置について話す。無料。先着250人。(名古屋市立大) 052(853) 8991

◇名古屋外大講演会「世界を駆けめぐる」国際協力現場からの発信 7月5日(火) 後3〜4:30、日進市岩崎町、同大7号館地下1階701教室。貧困や紛争に加え気候変動、高

募集

◇クラシックで楽しむ爽やかな夏「コンサート」 7月6日(水) 前11:30、中区の宗次ホールで開催する同ホールと県立芸術大の共同企画「演奏家育成プロジェクト」の第1回エマーシングコンサート。カルテット・アホイがパッヘルベル「カノン」、「日本の夏」メドレーなどを演奏する。はがきに住所、氏名、電話番号を書き、〒4600000 8 中区栄4の5の14、宗次ホール「中日新聞」係宛てに6月30日(木)までに申し込む。応募多数の場合

5) 0461

◇美術文化展 29日(水) 7月3日(日)、東区東桜1、県美術館ギャラリー 052(971) 5511。当日一般700円、高大生500円、前売りは各100円引き、中学生以下無料。

◇東美展 29日(水) 7月3日(日)、瑞穂区瑞穂通1、市博物館ギャラリー 052(853) 2655

◇日洋展 29日(水) 7月3日(日)、東区東桜1、県美術館ギャラリー 052(971) 5511。一般800円、65歳以上・学生無料。

◇「色をつける世界」展 29日(水) 7月4日(月)、中区栄3、栄3パーク2階、ギャリリー 052(262) 2335